

## 第2学年国語科学習指導案

1 単元・題材 きずなを読む「君は「最後の晚餐」を知っているか」（光村図書2年）

### 2 目標

- 評論文を読む楽しさを味わい、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。  
(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 文章の構成や展開、表現の仕方の工夫について考え、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。  
(読む能力)
- 用語の使い方や抽象的な言葉に着目し、文脈に即して意味を理解できる。  
(言語についての知識・理解・技能)

### 3 指導観

- 本題材は、中学校学習指導要領国語第2学年「C 読むこと」の指導事項(1)ウ「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること」及び「伝統的な言語文化に関する事項」(1)イ「言葉の特徴やきまりに関する事項」(イ)(オ)を受けて設定されている。また、題材である評論文は、教科書では初めて学習する文章形態であるが、評論文を読むことは、学習指導要領の第2学年「読むこと」の言語活動例イに例示されている。

評論文は、ある事柄について、筆者固有の考え方・感じ方を述べたものであり、他の説明文よりも書き手のものの見方や考え方を強く反映している。また、読み手によりよく理解させるための表現の仕方の工夫がなされている。そうした、対象の魅力とともに、筆者の考え方・感じ方を読み取ることは、自分自身の考えの形成や対象のとらえ方に大きく影響を与える。また、評論文の学習を通して効果的な用語の使い方を学習することは意義がある。

教材文は、レオナルド・ダ・ヴィンチの絵画「最後の晚餐」について書かれた評論文である。対象の魅力を中心に描写しながら、書き手の感じたことを交えて論述が進められている。芸術批評の専門家の文章でありながら、日常的な言葉を効果的に使っている点や、専門用語を具体例や図を示しつつ無理なく使っている点が特徴であり、文章構成も三段構成で、中学生が読み進めやすい内容である。加えて、長短の文のバランスや文末表現の疑問型や体言止め、問いかけが文体のリズムを生み、読み手をひきつける文章といえる。また、美術科の学習においても扱われる絵画であるため、生徒の興味・関心を高められる教材である。

- 本学級の生徒は、明るい雰囲気の中で意欲的に学習に取り組むことができる。男子生徒を中心に、挙手による発表も多く、音読活動にも大きな声で取り組むことができる。しかし一方で、積極的な挙手発表をする生徒は固定化されており、グループ活動におけるリーダー（進行役）を中心とした話し合いも十分なものとはいえないという課題もある。また、本学級には、学習支援を要する（文字の読み書きに困難さをもつ）生徒が数名いる状況である。

4月に実施されたNRTテストの結果によれば、全国標準偏差値50.0に対し、本学級偏差値

は52.0という結果であった。大領域別では、「読むこと」が全国比97と落ち込みが見られ、中領域別では「説明的な文章を読むこと」全国比95、「文学的な文章を読むこと」全国比99、「語句や表現技法についての理解」全国比102という結果であった。このことから、語句や漢字に関する基礎・基本をさらに定着させるとともに、語句を手がかりとした説明的文章の読み取り方を指導していくことが必要であると考えた。そこで、これまでの学習において、教材ごとに語句の意味調べ活動を取り入れたり、学習用語を提示したりする授業に取り組んできた。しかしながら、語句や学習用語を意識して自ら学習に取り組む様子はまだ十分とは言えない状況である。したがって、描写や表現の仕方の工夫に着目して説明的文章を主体的に読み進める指導が必要である。

- そこで、本題材の指導においては、文章構成・論の展開、語句や表現の仕方の工夫について理解させることを通して、説明的文章を読むときの視点や内容理解のための学習方法を身に付けさせ、主体的に説明的文章を読むことができる力を身に付けさせたい。そのために、題材である評論文を読み、構成や表現の仕方の工夫について、自分の考えを述べる言語活動に取り組む。

これまでの学習においては、教材文に対する興味・関心を高めるため、絵画や評論文についての学習を単元の導入とした。また、語句の意味や接続詞に着目することで、文章構成や内容についての学習を進め、筆者の「最後の晚餐」に対する評価や伝えようとする魅力について読み取る活動に取り組んできた。

本時では、表現の仕方の工夫について自分の考えをまとめる学習に取り組む。導入において、これまでの学習を振り返り、内容や学習用語の確認をすることで本時の学習につなげ、文章の魅力について考えるために、表現の仕方の工夫に着目して考えることを確認する。学習の流れを伝えることで、見通しをもたせ、学習への意欲を高めたい。展開においては、課題解決に向けて、個人－グループ全体という流れで学習を進めることで、生徒の思考の高まりを目指す。その際には、付箋紙やワークシートを活用し、生徒の主体的な学習活動を促したい。また、表現に関する学習用語を使って本教材文の魅力、すなわち表現の仕方の工夫について説明する場面を設定し、本研究主題に迫りたいと考える。支援を要する生徒に関しては、考え方の具体的例を示した「ヒントカード」を持たせることで、学習の補助としたい。さらに、表現の仕方の工夫について自分の考えをまとめさせ、グループでの意見交流や検討を通して、根拠を示して自分の考えを発表できるようにする。最後に、生徒の発表をもとに、表現の仕方の工夫がもたらす文章の魅力についてまとめ、本時の学習のまとめとしたい。

4 指導計画と評価計画 (全7時間)

時間	学習内容及び学習活動	国語への関心 ・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
1	<p>○絵や作者について知る。</p> <p>○絵画「最後の晩餐」に対する印象と理由をまとめる。</p> <p>○評論文について知る。</p> <p>○本題材の学習計画を知り、見通しをもつ。</p> <p>○新出漢字を学習する。</p> <p>○語句の意味を調べる。</p> <p><b>辞書で重要語句の意味調べをする。</b></p>	<p>○評論文に対する興味をもち、意欲的に感想をまとめようとしている。</p> <p>〈観察〉〈発表〉</p> <p>〈ワークシート〉</p>		<p>○抽象的な概念を表す語句、多義的な意味を表す語句などについて理解することができる。</p> <p>〈ワークブック〉</p> <p>〈ワークシート〉</p> <p>〈発表〉</p>
2	<p>○本文を通読し、感想をまとめる。</p> <p>○形式段落を確認する。</p> <p>○文章構成をつかむ。</p> <p><b>序論・本論・結論という構成について確認する。</b></p>	<p>○文章構成について考え、学習用語を理解しようとしている。</p> <p>〈観察〉</p>	<p>○構成を考え、内容の理解することができる。</p> <p>〈ワークシート〉</p> <p>〈発表〉</p>	<p>○文章構成や展開について理解することができる。</p> <p>○語句の意味と文脈の意味の関係に注意して読むことができる。</p> <p>〈ワークシート〉</p> <p>〈発表〉</p>
3 ・ 4 ・ 5	<p>○本文を読み、筆者の絵に対する評価とその理由を読み取る。</p> <p><b>構成や接続詞、語句に着目して内容を理解する。</b></p>	<p>○筆者の着眼点や評価の理由について考え、内容を理解しようとしている。</p> <p>〈ワークシート〉</p> <p>〈発表〉</p>	<p>○抽象的な概念を表す語句に注意しながら、絵画に対する筆者の着眼点について読むことができる。</p> <p>〈発表〉</p>	<p>○語句の意味と文脈の意味の関係に注意して読むことができる。</p> <p>〈ワークシート〉</p> <p>〈発表〉</p>
6 (本時)	<p>○本論部分から表現の工夫や効果について自分の考えをまとめる。</p> <p><b>表現の工夫や効果について、グループで話し合い、意見を交流する。</b></p>	<p>○表現の工夫や効果について考え、自分の考えをまとめようとしている。</p> <p>〈観察〉〈付箋紙〉</p> <p>〈ワークシート〉</p>	<p>○表現の仕方や描写の効果について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。</p> <p>〈ワークシート〉</p> <p>〈付箋紙〉〈観察〉</p>	<p>○語句の意味と文脈の意味の関係に注意して読むことができる。</p> <p>〈観察〉</p> <p>〈付箋紙〉</p> <p>〈ワークシート〉</p>

7	○筆者の表現の工夫を参考に、評論文を書き換える。	○筆者のものの見方・考え方を参考に、自分の考えをまとめようとしている。 〈ワークシート〉	○学習内容と関連付けて自分の考えを表現することができる。 〈ワークシート〉	○語句の意味と文脈の意味の関係に注意して読むことができる。 〈ワークシート〉
---	--------------------------	---	--	---

## 5 本時の目標

- 表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。(読む能力)

## 6 蓄えたい学習用語・蓄えたい語彙

蓄えたい学習用語	蓄えたい語彙
文章構成 序論 本論 結論 評論 筆者 文末表現 問いかけ 断定 理由 根拠 例示 呼びかけ 描写 接続詞 比喻	ざわめき 目のあたり 分析 動揺 緻密 原理

## 7 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評価の視点
導入	1 これまでの学習内容を確認する。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             絵の魅力を伝えるために、筆者はどんな書き方(表現)の工夫をしているのかを考えよう。           </div>	○これまでの学習内容を確認するために、テレビ画面で内容を提示する。 ○既習の学習用語の確認をさせる。 ○表現の工夫や効果について、描写や言葉を手がかりに考えることを確認する。	
展開	3 活動の流れを確認する。 4 表現の工夫と効果について、個人で考える。	○主体的に学習できるように、学習活動の流れを確認させる。 ○表現の工夫から考えられる効果について、自分の考えをまとめ、付箋紙に理由や根拠を記入させる。 ○付箋紙を活用することでグループでの話し合いが円滑に進むようにする。 ○支援を要する生徒には、具体例を示したヒントカードをもたせる。	I

	5 表現の工夫や効果について、グループで話し合う。	○筆者の表現の工夫やその効果について、理由や根拠を明確にしなが、グループで意見を交流させる。 ○全体の理解を図るために、台紙を使用して、文章部分を示しながら発表させる。
ま と め	6 表現の工夫や効果についてまとめる。	○学習内容を振り返らせるために、グループ発表の意見をもとに、教材文における筆者の表現の工夫についてまとめる。
	7 次の学習内容を知る。	○筆者の工夫を参考にして、評論文を書き換える学習をすることを伝える。

### 8 評価の視点と評価項目

評価の視点	評価項目〈☆評価方法〉
I 表現の工夫について根拠を明確にして自分の考えをまとめることができたか。	・ 表現の工夫について描写や例示、文末表現に着目しながら、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができている。  〈☆ワークシート、観察〉

### 9 板書計画

**学習用語**

文章構成 序論 本論 結論 筆者  
 文末表現 問いかけ 断定 理由 補足  
 描写 根拠 例示 比喩 接続詞

**【活動の流れ】**

- ① AとBを読み比べる。
- ② 表現の工夫に線を引く。
- ③ 表現の工夫と効果について考える。
- ④ 効果とその理由(根拠)について考え、  
寸評も二語…。

**【まとめ】**

君は「最後の晚餐」を知っているか  
 布施 英利

構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめよう。